

農作物技術情報 第4号 畑作物

発行日 令和6年6月27日

発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部

編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当(電話 0197-68-4435)

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます

パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆ 小麦 県中南部を中心に、6月下旬から小麦の収穫が行われています。収穫、乾燥調製にあたり、赤かび病の進展、DON等のかび毒の産生を助長しないことが重要です。子実水分が30%以下になり次第速やかに収穫し、適切に乾燥調製することが必要です。
 - ① 赤かび病の発生が多い場合や、発生ほ場で倒伏が見られた場合は、仕分け刈り取りをし、その後も必ず健全な子実と分けて管理する。
 - ② 子実水分30%以下になり次第、速やかに収穫する。
 - ③ 赤かび病被害粒は、粒厚が薄く比重が小さい傾向にあることから、乾燥調製施設においては、粒厚選別、比重選別等による調製を実施し、かび毒の含有濃度の低減に努める。
- ◆ 大豆 好天に恵まれ、播種作業は順調に進んでいます。降雨による滞水が生じないように、排水溝を確認しましょう。中耕は、土壌処理除草剤の効果がなくなり、雑草が発生し始めてから行います。培土は、倒伏防止や、根系への酸素供給などに効果があります。株元までしっかり土を寄せて、収穫時に土を噛みこまないよう、高さが一定になるように行いましょう。また、難防除雑草の対策は早めに行いましょう。

小麦

1 生育概況

県中南部を中心に、6月下旬から小麦の収穫が行われています。

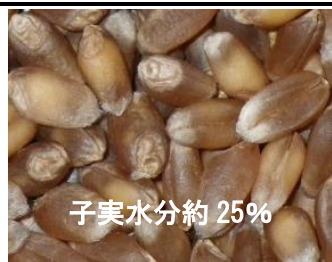
2 刈分け

赤かび病の発生が多い場合や、発生ほ場で倒伏が見られた場合は、被害を受けていない健全な麦とは分けて収穫し、その後も必ず健全な麦と分けて管理します。

3 適期収穫

- (1) 収穫適期の間近になったら頻繁に子実水分を調べ、子実水分30%以下になり次第、速やかに収穫してください。刈り遅れにより降雨に当たると、赤かび病の進展、DON等のかび毒の産生を助長する原因となります。
- (2) 子実水分は、1日で大きく変動します。晴天には1日に2～2.5%程度低下するとされますが、風がある条件では5%以上低下することもありますので、水分計でこまめにチェックします。

表 1 小麦子実の固さと水分

子実水分 (%)	子実の固さ	参考(子実の状態)
30	固いろう状 爪でパカッと割れる、内部はガラス化	 子実水分約 25%
25	固いろう状 爪がやっとたつ、内部はガラス化	

4 収穫作業の注意点

(1) 乾燥機への速やかな張り込み

収穫された麦をそのまま長時間放置すると変質し、異臭麦や熱損傷が発生します。刈取り後はできるだけ早く（必ず 4 時間以内に）乾燥機へ搬入します。

(2) 異物混入の防止

収穫・調製時は、圃場の土を収穫物に付着させないように注意します。また、収穫時にコンバインによる土の噛み込みを防ぐため、できるだけ高刈りし、万一コンバインのヘッダ部に土を噛み込んだ場合は、作業を止めて清掃を行ってください。

収穫した小麦を運搬する場合は、急な降雨や異物の混入を防ぐため、シートをかけてください。

5 乾燥調製作業の注意点

乾燥機的能力にあわせて収穫作業をすすめ、速やかに乾燥を行います。

(1) 送風温度

送風温度は 50℃以下とします。また、穀温が 40℃を超えないように適宜様子を見てください。

高温で急激に乾燥すると、熱損傷や退色粒が発生する場合があります。

(2) 張り込み量

乾燥機への張り込みは、タンク容量の 7～8 割程度とします。平型では堆積の高さを 20cm 程度に抑えてください。

(3) 二段乾燥の実施

乾燥施設の効率利用を図るため、二段乾燥が有効です。子実水分 17%以下となるまで一次乾燥し、一時貯留放冷後に仕上乾燥で子実水分を 12.5%にします。なお、貯留時は通気性に留意してください。

(4) 適切な調製

粒厚選別機や比重選別機、光学式選別機を利用することで、高 DON 濃度の子実を除去することができます。なお、選別機を組み合わせる場合は、粒厚選別→比重選別→光学式選別の順番で行うと効率的です。

大豆

1 生育概況

好天に恵まれ、播種作業は順調に進み、出芽・初期生育は概ね良好です。

2 排水対策の確認

大豆の生育初期は湿害に弱く、ちょうど梅雨時期と重なるため、圃場に滞水部分が出来ないよう排水対策は念入りに行います。明渠や水尻にゴミなどの詰まりや崩れがないか確認し、排水口（フリードレン下部）の掘り下げなどを実施します。

生育初期とは逆に、生育後期の大豆は要水量が多く、開花期に高温・乾燥が続くと着莢数の減少により減収することがあります。そのような干ばつ時には、排水対策として設置した明渠や排水溝を、畦間かん水に使用できます。



写真1 排水口まで掘り下げ

3 中耕・培土

（1）実施時期

中耕・培土は、大豆の2～3葉期に1回目を実施することが一般的です。土壌処理除草剤の効果がなくなり、雑草が発生し始めたら早めに行います。

（2）中耕・培土の作業上の留意点

培土作業は収穫時に土を噛み込まないよう高さを揃え、株元まで土がかかるように行います。

（3）ディスク式中耕除草機

ディスク式中耕除草機を用いると、土壌水分の比較的高い水田転換畑でも作業が可能です。

岩手県農業研究センターでは、ディスク式中耕除草機について、その除草効果を高めた改良型ディスク式中耕除草機および播種への活用を含めた一貫体系を研究成果として発表しています。

詳しくは最寄りの普及センターあるいは農業研究センターまで問い合わせください。

（H25 年 指導）水田大豆の畦立て栽培に適応できる改良型ディスク式除草機の効果

https://www.pref.iwate.jp/agri/_res/projects/project_agri/_page_/002/004/802/h25shidou_06.pdf

（H26 年 普及）ディスク式畑用中耕除草機を活用した大豆の一貫栽培体系

https://www.pref.iwate.jp/agri/_res/projects/project_agri/_page_/002/004/599/h26fukyu_01.pdf

「改良型ディスク式除草機の組み立てマニュアル」

https://www.pref.iwate.jp/agri/_res/projects/project_agri/_page_/002/004/371/josouki_manual.pdf

4 生育期の除草剤散布

近年、広葉雑草を対象として、大豆の生育期に全面散布できる除草剤や、畦間あるいは畦間・株間に処理できる非選択性除草剤の登録が増えてきました。発生する草種や発生量を確認し、効果のある剤を遅れずに散布してください。特に難防除雑草が年々増加傾向にありますので注意が必要です。

表1 大豆生育期における除草剤の処理方法など

処理方法	使用する除草剤
雑草茎葉散布又は全面散布	選択性除草剤
雑草茎葉散布（畦間処理）	非選択性除草剤
雑草茎葉散布（畦間・株間処理）	非選択性除草剤

除草剤を散布する場合は、農薬のラベルに記載されている使用時期、使用方法、使用回数等をよく読み、適正に使用してください。

なお、非選択性除草剤を使用する場合は、飛散防止カバーを用いて散布するなど、大豆に飛散させないように十分に注意してください。

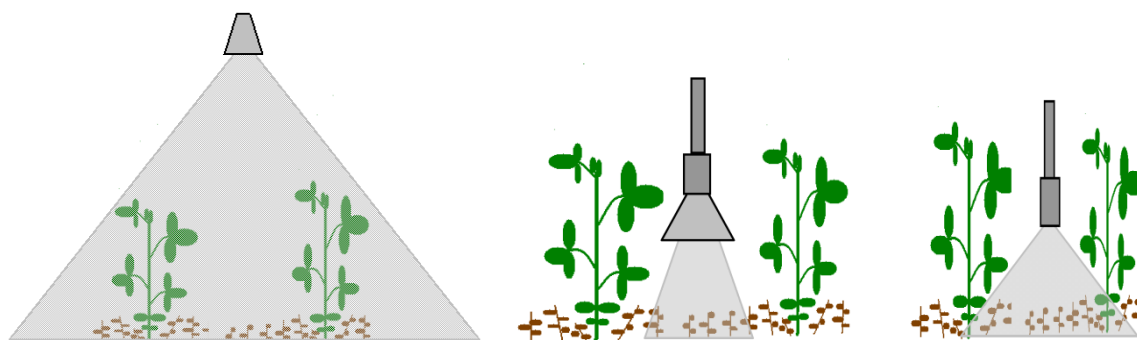


図1 生育期に使用できる除草剤の散布イメージ
(左：全面散布 中：畦間処理 右：畦間・株間処理)

5 大豆の難防除雑草対策

近年、帰化アサガオ類やアレチウリ等の難防除雑草が県内でも増加傾向にあります。つる性の難防除雑草は、つるが巻き付き始めると特に防除が難しくなりますので、早めに非選択性除草剤のスポット散布、あるいは手取り除草などを行ってください。

これら難防除雑草の種子の寿命は長く、水田に戻しても直ちに死滅しないものがほとんどのため種子をつける前の防除が重要です。

また、難防除雑草の多くは、コンバイン・トラクター等の農機具に付着して拡散しますので、圃場の状態や作業の順番を検討し、雑草の種子を持ち込まないように気をつけてください。



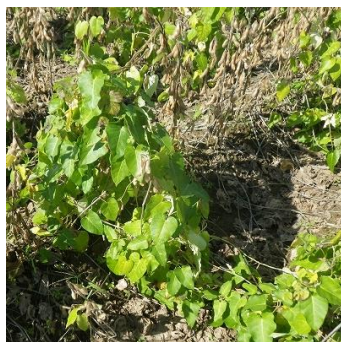
マルバアサガオ



アメリカアサガオ



アレチウリ



ガガイモ



ヤブツルアズキ（黄緑色の小さな葉）



イチビ

写真2 県内の大豆圃場で問題となっている難防除雑草の例

次号は7月25日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

熱中症防止

- 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等作業時間の工夫を行うこと。水分をこまめに摂取し、汗で失われた水分を十分に補給すること。気温が著しく高くなりやすいハウス等の施設内での作業中については、特に注意。
- 帽子の着用や、汗を発散しやすい服装をすること。作業場所には日よけを設ける等できるだけ日陰で作業するように努めること。
- 暑い環境で体調不良の症状がみられたら、すぐに作業を中断するとともに、涼しい環境へ避難し、水分や塩分を補給すること。意識がない場合や自力で水が飲めない場合、応急処置を行っても良くならない場合は、直ちに病院で手当を受けること。

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。

6月1日～8月31日は
農薬危害防止運動期間です

- 農薬散布時は、近隣住民・周辺環境に配慮しましょう
- 農薬散布準備、作業中・後の事故に注意しましょう
- 農薬は適切に保管・管理しましょう